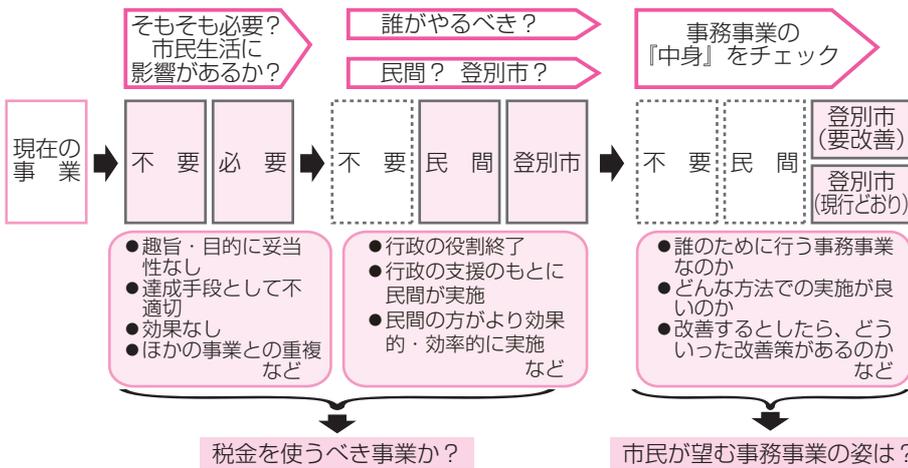


◎『事業仕分け』の流れ



◎ 1 事業ごとの事業仕分けの時間配分

項目	内容
事業説明 (約5分)	○市の担当者が資料をもとに、事務事業の趣旨、目的、内容、進捗、課題、方向性などについて説明
質疑応答・議論 (約12分)	○仕分け人が、各事務事業はどうあるべきかという観点から市の担当者に質問 ○趣旨、目的の是非、目的を達成するための手段の妥当性、事業の効果・効率性、実施主体の在り方などについて議論
チェック (約3分)	○仕分け人が、質疑応答・議論の結果をもとに各自チェックシートに記入 ○事業の仕分け項目を選択。仕分け項目の選択理由や改善点など、コメントを記入
合計 (20分)	○仕分けの結果は、コーディネーターと仕分け人が別室にて意見交換をし決定

※この仕分け時間は標準的なものであり、事務事業の内容や事業仕分けの状況によってコーディネーターが延長・短縮を行います。

◎事業仕分けの仕分け項目

区分	判断基準内容
不要	市民生活に影響がない、効果がない、あるいは薄いなど
民間	行政の役割が終了している、民間が実施する方が効果的・効率的、民間委託などを実施すべきなど
登別市 (要改善)	利用ニーズの再把握が必要、事業内容の抜本的な見直しが必要、事業統合、あるいは段階的廃止が必要など
登別市 (現行どおり)	現行どおり事業を行うことが望ましいなど

また、今回の事業仕分けの試行において、事務事業の選定方法や対象事業数、事業仕分けの際の意見交換のあり方など、今後検討すべきいくつかの課題がありましたので、制度の内容などを見直し、来年度も引き続き、事業仕分けの試行に取り組みます。

市は、事業仕分けの対象となった事務事業について、この仕分けの結果や市の内部評価などを参考に方向性を決定し、平成22年度以降の市の予算に反映させるよう努めるとともに、今後の広報紙などでお知らせします。

『登別市事業仕分け』では、仕分けの対象となる事務事業の選定をこれまで市の外部評価導入に協働で取り組んできた『登別市市民自治推進

市民目線の『登別市事業仕分け』とは？

◎コーディネーターと仕分け人

『登別市事業仕分け』では、仕分けの対象となる事務事業の選定をこれまで市の外部評価導入に協働で取り組んできた『登別市市民自治推進委員会』に依頼し、市民の目線での事業選定をお願いしました。また、仕分けの全体の流れを取り切るコーディネーターには、室蘭工業大学から行政事務などに明るい教授職を推薦いただき、仕分け人には、市民自治推進委員会をはじめ、登別市連合町内会、登別観光協会、日本工学院北海道専門学校との協力をいただき、仕分け人の推薦（自治推

進委員会4人、そのほかの団体各1人）をお願いしました。

◎『登別市事業仕分け』の流れ

仕分け作業は、1事業に20分間をかけて行います。1事業にかける時間が短いとの意見が市役所内外からありましたが、事業仕分け当日までに3回にわたり勉強会を開催し、仕分け人には事業仕分け作業は、1事業に20分間をかけて行います。

仕分けは、仕分け人が市の担当者から事務事業の内容を聞くほか、担当者への質問や仕分け人同士での意見交換などを行い、全事業の仕分けを行った後、コーディネーターと仕分け人が話し合い、仕分け結果を出しました。

仕分け結果は、対象事務事業がそもそも必要かどうか、必要ならばどこが主体となって実施すべきかを判断の基準とし、1事業ごとに『不要』、『民間』、『登別市(要改善)』、『登別市(現行どおり)』の4種類に区分しました。